

第八回日本モビリティ・マネジメント会議 開催案内

- 主催：一般社団法人 日本モビリティ・マネジメント会議
- 会場：宮城県仙台市 仙台市民会館
- 共催：(社)土木学会、仙台市 ほか
- 後援：国土交通省（予定）ほか
- 日時：2013年7月12日（金）～7月13日（土）
- 趣旨：

モビリティ・マネジメント（MM）は、社会心理学や社会学などの「学術的」な知見を基盤とした、人々にコミュニケーションで働きかけることにより交通行動の自発的な変化を促す「実務的」な交通施策です。我が国におけるMM施策が今後も効果的・広範に推進されることを目指して、行政、大学、コンサルタント等のMM関係者が一堂に会する日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）の第八回会議を開催いたします。

● 発表申し込み：

下記をJCOMM web ページ内の発表申込フォーム (https://ssl.alpha-prm.jp/jcomm.or.jp/form/8th_presentation.html) に記入のうえお申し込みください。発表申し込みは無料です。

- ①発表者・連名者の氏名・所属/勤務先、②代表者連絡先（氏名、住所、tel、e-mail）、③MMで使用したツール展示の希望、④発表タイトル、⑤発表概要（800字以内（厳守）でa)背景と目的 200字程度、b)プロジェクトの内容 200字程度、c)効果 200字程度、d)結論 200字程度を記載）、⑥キーワード

※ 発表申込締め切り：2013年4月12日（金）

※ 発表形式にはポスター発表（ポスター掲示と説明）、口頭発表（スクリーン形式での口頭発表）の2通りありますが、個々の発表の形式については、プログラム編成の都合により、JCOMM 実行委員会にて検討させていただきます。

※ なお、概要集には、代表者の方の連絡先（電話番号・メールアドレス）を記載させて頂く予定にしております。もし不都合ございましたら、投稿時にご旨、お申し出下さい。

● 参加申し込み：

下記をJCOMM web ページ内の参加申込フォーム (https://ssl.alpha-prm.jp/jcomm.or.jp/form/8th_entry.html) に記入の上お申し込みください。

- ①氏名、②所属/勤務先、③連絡先（住所、tel、e-mail）

※ 参加申込締め切り日：2013年6月21日（金）

※ 参加費（資料代含む）3,000円

● 詳細：URL：<http://www.jcomm.or.jp/>

● 問い合わせ先：

京都大学都市社会工学専攻藤井研究室 JCOMM 事務局
（担当：神田・田中・山川・藤井） tel: 075-383-7493



満開の桜に春の到来をひしひしと感じる今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。新入生や新入社員を迎え、気持ち新たに新年度をスタートさせたという方も多いかと思えます。

今回のJCOMM通信は、第八回日本モビリティ・マネジメント会議開催の詳細を中心にお届けします。



写真提供：仙台市観光交流課

本年七月十二日（金）、十三日（土）に仙台で開催を予定している第八回日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）の詳細が決まりました。本会議では、本年度取り組まれたMMの成果はもちろんのこと、現在構想中のMMの計画や、MMに関連する各種の制度的/研究的な提案や自由なアイデア等、多様なご発表の申し込みをお待ちしています。MMについて多面的に議論できる、年に一度の機会です。左記をご参照の上、ぜひお申し込みください。皆様は仙台でお会いできることを楽しみにしております。

イベント案内 第八回JCOMM開催のお知らせ

イベント案内 平成二十五年JCOMM賞 候補募集について

日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）は、我が国におけるモビリティ・マネジメント（MM）施策が効果的・広範に推進されることを目指して、行政、大学、コンサルタント等のMM関係者が一同に会する定期的な会議であり、本会議を通じてMM技術・知識の体系化を積極的に進めています。JCOMM実行委員会（委員長：石田東生筑波大学大学院教授）では、国内の様々なMMについての様々な取り組みや研究の中でも、特に優秀な取り組みや研究を選定し、その実現に貢献した個人（複数可）あるいは団体（複数可）を表彰いたします。そして、本賞を通じて、MMの「実務発展」と「技術発展」を期待します。本賞の趣旨をご理解頂き、各賞候補に奮ってご応募・ご推薦されますようお願い申し上げます。

なお、応募規定の詳細につきましては、JCOMMホームページをご覧ください。

【各賞の概要】

○マネジメント賞

モビリティ・マネジメントにおける実務的な「一連の持続的マネジメント」の中でも、とりわけ、都市・地域のモビリティの質的改善や渋滞、環境問題、公衆の健康増進問題や都市構造問題などの交通に関連する諸問題の解消に向けて、効果的に推進されている一連の持続的マネジメントについて、個人（複数可）あるいは団体（複数可）を対象として授与する。

○デザイン賞

モビリティ・マネジメントにおける実務的なプロジェクトにおいて実際に使用されたマップ、リーフレット、フォルダー、アンケート票等の各種ツールの中でも、とりわけ秀逸なデザインがなされた一個、ないしは、一群のツールについて個人（複数可）あるいは団体（複数可）を対象として授与する。

○技術賞

モビリティ・マネジメント実務に資する技術の発展に、顕著な貢献をなした「研究業績」について個人（複数可）を対象として授与する。

○プロジェクト賞

モビリティ・マネジメントの一連の取り組みの中で実施された「実務的なプロジェクト」の中でも、とりわけ、都市・地域のモビリティの質的改善や渋滞、環境問題、公衆の健康増進問題や都市交通問題などの交通に関連する諸問題の緩和に実際に大きな貢献をなしたプロジェクト、あるいは、そうした諸問題の抜本的緩和に繋がりを新規性を持つプロジェクトについて個人（複数可）あるいは団体（複数可）を対象として授与する。

ニッポンのMM
第二十一回
仙台市独自の
ソフト施策
「せんだいスマート」

仙台市では「せんだいスマート」をキャッチフレーズとして、次のソフトMM施策を展開しています。

① 転入者MM……生活の足として公共交通を利用してもらえるよう転入者や東日本大震災によって仙台市内への避難を余儀なくされた方に対して、バス路線図等の「公共交通利用促進グッズ」の配布を行なっています。



▲ 写真 交通フェスタ2012での仙台市の展示風景

② 大学生MM……仙台周辺の大学への入学予定者に対し、各大学の在籍者が独自に製作した

「交通情報ツール」を事前配布し、公共交通の利便性が高い地域を居住地として選択するよう促し、公共交通の利用促進を図っています。なお、仙台市では、賛同を得られた大学に対し、マップ作成費用等の支援を行うとともに、マップ情報の更新などの面で各大学をサポートしています。

③ 小学生交通環境学習……親の公共交通離れにより、小学生の公共交通利用機会が減少してま

に配慮したものに換え、公共交通利用者として育成するため、モデル授業を通じて学習プランや教材を作成し、「交通環境学習」の普及に向けた検討を行なっています。

「せんだいスマート」における一連の取り組みは、対象者に合わせて展開しているため、効果的かつ効果的に公共交通利用促進に寄与しています。

(仙台市公共交通推進課 及川純一)

JCOMM 法人会員紹介

Vol.1 ㈱ 福山コンサルタント

㈱福山コンサルタントは、『自然環境と調和した快適な国土づくりを担う技術者集団』を目指し、「交通・地域・環境マネジメント」の六分野のワンストップ対応によるコンサルティングサービス提供を実施しています。

さて、当社におけるMMへの取り組みとしましては、第三回JCOMMにおきまして『福山都市圏におけるベスト運動を核としたモビリティ・マネジメント』で関係機関の皆さまとともにJCOMMマネジメント賞をいただいたところから始まっています。

第三回JCOMMでは、基調講演として、米国交通学会のエリック氏が参加されており、「『ベスト運動』について、ヨーロッパ(ECOMM)でも紹介して欲しい」とのオファーを頂き、翌年五月にスペインのサンセバスチャンにて紹介する機会をいただきました。この様にMMの取り組みが国内だけでなく、国外でも熱心に研究・実践され、会議の場で意見交流がなされ、多くの地域と人々に浸透することが、我々の直面している交通課題・環境問題などの解決につながるのではないかと改めて感じました。

また、MMの思想は私どもの傍らに常に求められます。最近で

は、MM業務だけでなく、通常のアンケート調査や広報資料、ひいては社内用資料においてもMMのエッセンスを取り込み、受け手に響く資料づくりになるよう、取り組んでいます。



▲ 写真 サンセバスチャンにおける発表風景

★動機付け情報の解説:

2010年9月から大阪府箕面市内ではコミュニティバス(オレンジゆずるバス)が運行を開始しました。その一環で「ばすいく」プロジェクトをすすめています。「ばすいく」にはバスで行くだけでなく「バス育」の意味も込めています。バスで豊かな生活を育む、バスでお互いを思いやれる心を育む、そんなバスに地域のみんなで育むことを目指しています。大学生がオレンジゆずるバスを使って箕面市内の地域資源(朝市や温泉、スイーツなど)を堪能するばすたびの模様やいろいろな特典を用意してもらっているサポーター店などを紹介するコミュニケーション誌「ばすいく」を発行しています。

(素案作成:大阪大学、デザイン:バード・デザインハウス)



拝見!

動機付け冊子 vol.4

■事例:箕面市コミュニティバスのばすいくプロジェクト (コミュニケーション誌「ばすいく」)

「なぜ、クルマを控えなければならないのか」を人々に理解してもらえなければ、MMの効果は限られたものになります。このコーナーでは、MMの重要なツールである動機付け冊子に着目し、各地の事例を紹介します。

